NASVA 受託病床 5 年目を迎えて

2020 年 2 月、四国地区で初めて NASVA（自動車事故対策機構）より病床を委託されて今年の 3 月で 5 年目を迎えます。これまでに 5 名の患者さんを受け入れてきました。

NASVA とは、National Agency for Automotive Safety and Victims' Aid の略称で自賠責保険の基金で運営されています。NASVA 病床では、一般の病床より長期にわたって患者さんと関わっております。当院では、6 か月ごとの病状説明時に次の 6 か月を延長する形をとっており、最長 3 年の期間を NASVA 病床で過ごすことができます。

NASVA 病床では、ワンフロア病棟システムを取り入れて集中的に看護ができるようにするとともに、同じ看護師が一人の入院患者さんを継続して受け持つプライマリー・ナーシング方式での運営がされています。

また、リハビリは医師・看護師・リハビリテーション技師の 3 職種が密に連携し、機能回復に向けて積極的に実施しています。その他、療養上必要と考えられる検査は随時実施され、口腔外科や耳鼻咽喉科、NST（Nutrition Support Team, 栄養サポートチーム）など他の診療科とチームでの関わりも実施しています。

週 1 回のカンファレンスでは、患者さんに関することだけでなく、学会参加報告や新しい治療法の話題などにも触れ、より良い医療が提供できる体制を構築しています。

院内イベントにて動物とのふれあいの様子

患者さんの状態に合わせて、院内の各種イベントにも参加しています。

当院の NASVA 病床は交通事故による遷延性意識障害の方を受け入れています。事前に申し込みなどの手続きが必要ですので、対象者に該当するかどうかは随時お問い合わせください。　（文責 / 言語聴覚士　北村 広志）

多職種協働の NASVA チーム
山本祐司理事長

松山市民病院 出張・おでかけミーティング
第2回　基礎知識の伝達講義

第 1 回の記事はこちら！

地域医療連携室 主任 言語聴覚士　北村 広志

前回、昨年の夏号の本誌「～嚥下について学ぼう～」の中で、主に実技研修についてお伝えしました。今回は「基礎知識の伝達講義」についてお伝えします。

嚥下に関する知識の範囲は幅広く、かなりの情報を整理する必要があります。しかし、ポイントを絞ることで要点を押さえて伝達することは可能と考えています。具体的には、スライドを用いて講義形式で実施します。個別の患者さん向けではなく、一般的な総論をお話ししています。

下の図では、「嚥下」の捉え方、影響の広がりを説明しています。実際には、皆様の要望を確認して、内容や講義時間の配分などを組み立てることになります。リスク管理メインであれば、窒息や誤嚥の仕組み。訓練メインなら、各筋肉の動きや間接訓練内容。食事介助や関わり方がメインなら、食事介助時の注意すべき点など（これまでの実績は、嚥下全般の内容で 40 分程度の講義が多いです）。

これら総論を基礎知識として実技研修も併用していただければ、日々の患者さんや利用者さんの困りごとに対応する引き出しが増えると思います。また、安全管理のために注意すべきポイントをスタッフ同士で確認した上で、業務に役立てていただけると考えています。

ご興味がありましたら、「地域連携だより 2024 新年号」の QR コードよりお申込みください。